

KOBE MODERN CULTURE

音楽



★滝えり子エレガントコンサート
12月10日(土) 18時30分 神戸国際会館 4500円(全席自由)



滝えり子 華麗に歌い上げる。ハバックは北野

タダオとアロージャズオーケストラ19人にストリングスを加えた35名のオーケストラでダイナミックなサウンドが楽しめる。
★このチケットを5名様にプレゼント。希望者は葉書に住所、氏名を明記のうえ神戸っ子「滝えり子」係
★第九シンフォニーの夕べ
12月24日(土) 19時神戸文化ホール A3500円 B3000円

朝比奈隆に代って今年から大友直人がタクトを振る。独唱



直人は岡田晴美、竹本節子、田原祥一郎、三室

テラン揃い。合唱ではこの日のために練習を重ねた生田文化会館第九をうたう会

など4団体が競演、「第九」シンフォニーの興奮と感激を皆でわかち合う。

★このチケットを5名様にプレゼント。希望者は葉書に住所、氏名を明記のうえ神戸っ子「第九」係。



踊舞

★林 恵介に贈る会

12月20日(火) 18時 神戸文化ホール 2000円

昨秋、急ぎ足で他界した照明家の林恵介氏の追悼公演。氏と親交の深かったス



故・林恵介 兵庫 舞家協会の有志23名が集ま

って企画し公演に至った。幕あきで魔力にも似たすばらしい照明効果が舞台に広がり、コンサート形式の舞踏が繰りひろげられる。



演劇

★劇団俳優座公演

「じやじや馬ならし」

12月15日(木)・12月17日(土) 18時15分18日(日) 13時30分のみ 神戸文化センターホール 一般3000円 労演会員2800円

妹娘ビアンカはおしとやかな美女。それに比べて姉娘キャタリーナはすこいじやじや馬。モテル妹娘をめぐる3人の求婚者たちの策



栗原小巻 おしゃ喜劇。一方、おバカタマの姉嬢に求婚者が現

われ「じやじや馬ならし」が始まる。豪華メンバーでおくるアクションいっぱい

★「シエルプールの雨傘」

12月1日(日)・8日(日) マチネ(昼)とソワレ(夜)あり 新神戸オリエンタル劇場

舞台はフランス北部の港町シエルプール。結婚を誓い合



荒川亮 誓い合う2人 荒川亮 荒川亮 荒川亮

争が終わり数年後に再会した2人だが……ミッシェル・ルグランの名曲にのせて綴られるオペラティックミュージカル。



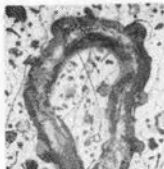
美術

★アメリカ

モダンアート展

12月15日(土)・12月25日(日) 10時19時 海天堂ギャラリー 入場無料

海天堂ギャラリーが10月にニューヨーク、サンフランシスコ、ロスアンジェルズで直接買付けたアメリカ現代美術の数々を展示。アレンディ・ウオーホール、ア



「空の詩」 スカット時代アートする若々

しいエネルギーがギャラリイに溢れる。
★タダと構成主義展「20世紀」
12月19日(月)まで 10時19時(無休) つかしんホール 一般700円 大高生500円 中小生300円
一九一〇年以降、ヨーロッパ各地で開花した前衛的な二大美術運動にダダ及び



「無題」 ザキ主観主義が構成する。ラシある。本展で

別に語れがちであったこの二大潮流に共通する「造形要素とその構成」にスポットを当て、相互作用を明らかにするとともに後への影響力も探っていく。



映画

★男はつらいよ

「寅次郎サラダ記念日」
12月中旬より国際にっかけてロンドンショー 一般1500円 大高生1300円

淀川長治
映画評論家



ヴィム・ヴェンダースの映画詩

そして映画サスペンス

「都会のアリス」

東京有楽町のシネ・シャンテで「ベルリン・天使の詩」(一九七七)が今月で足かけ八カ月のロングランを記録中である。かんたんな映画ではない、前衛的でさえある。それなのにたとえ小劇場といえ八カ月えんえん目下まだ上映中のところに庶民をみくびつてならぬ大衆のすごい感覚をさとする。ひとを馬鹿にした急ごしらえの映画はやがてその監督をも大衆は馬鹿にしよう。

ところで「ベルリン・天使の詩」はドイツ映画のヴィム・ヴェンダースの作品でありこの監督のものには「アメリカの友人」(一九七七)「バリ・テキサス」(一九八四)がすでに日本でも封切られている。「アメリカの友人」はヒッチコックを思わせ「バリ・テキサス」は放浪の孤独を男のマスクから感じさせた。

その彼の「都会のアリス」(一九七四)。これは一時間五十二分のモノクロで全篇十六ミリ感覚かんかくの素人撮影ムードを思わせながら、この監督の作品個性を鮮やかに掴みとり得るヴェンダース研究には貴重な作である。

ドイツ出版社からアメリカ旅行記をたのまれたドイツの作家が一行も書けないまま困りきった気持ちでニューヨークあたりの海岸、たぶんコニー・アイランドであろう、その人っ気のまったくない砂原で海を見ながら何となくポラロイドであたり構わずパチパチと撮っている。

そしてカメラから一枚また一枚ひきだすとかすみのかかったうすぼけた風景、やがてそれが次第にはっきりと見えだしてくる。

この作家が、出版社との約束の旅行記の書けぬまま、ドイツへ帰ろうと思ひ、空港へ。ところがドイツの空港で帰れない。もう一泊アメリカに泊ることになる。ところが同じくドイツにかえる予定の母と子(アリス九歳)もこの日をあきらめてホテルで一泊。ところが原稿の書けぬままのドイツの作家フィリップ(たぶん四十歳あたりか)と偶然同じホテル。そこでフィリップ(リユディガー・フォークラー)はその母と娘と親しく語り合ったそのあくる日、目を覚ますとアリスの母はアリスをひとり残して、置き手紙に「明日の正午エム・パイアの屋上の見はらし台に来て下さい。そこでアリスを受けとりにまいります」……とついに姿を消してしまっていた。仕方なくあきらめてアリスを連れてアムステルダムへ行くことにした。アリスは便所で泣いたが、意外にこの子はしたたかもので「のどがかわいた」「おなかがすいた」と平気でフィリップにそれを買いにやらせる。いろいろと旅から旅とこのアリスを連れたフィリップのあがきがこの映画にポラロイド・カメラでとりだした写真のようになり、ぼやけて薄暗くハッキリしない。

しかし……次第に鮮やかに人物を見さだめられるときがくるだろう、それを待つより仕方がないという風にも思わせる。ホテルに泊ったり、ゆきずりの女の家にも泊めてもらったり、フィリップはまったく困りきり、アリスに母の家を聞きただしやつとその家にゆくとその家には母もいなく別人のイタリア人が家の中から出てきて「何ですか、知りません」と返事する始末。今度はアリスが知っているという祖母の家の表の写真を小さなハンドバックからとりだしてここへ行くという。ところがドイツのどこかわからない。ドイツの地図を出しAからB、BからCと順番にその土地その都市の名をアリスに聞きただしたがよくわからない。

もう、うんざりした、するとアリスは小さなハンドバックから財布をとり出しお札の一枚を出して「これあげる」といった。見るとアメリカの十ドル紙幣かと思っただのによく見ると百ドル紙幣なのでびっくり。結局アリスを警察に連れてゆくなり仕方ないと決心する。

このような映画を「ロード・ムービー」といって、バスに乗ったり電車に乗ったり旅客機で空を飛んだりしながら次第にストーリー

はその本質を鮮やかにしてゆき、この道中記ともいえるラスト、つまり終着点を、どうしめくくるかが興味を持たせるのだが、それよりもホテルに泊ったりモノレールを下から見たりしながら行く当てのハッキリしないこのフィリップのアリスつきの旅の「不安定」「不安感」がこの映画の魅力というか映画のおおげさに申せば映画芸術を盛り上げてゆく。

ラストはアリスとフィリップを乗せた列車がミュンヘ



▲アリス (イエラ・ロットレンダー)

◀フィリップ (リュディガー・フォークラー)



ALICE IN DEN STÄDTEN——ロード・ムービー<3部作>の内、初期の第1作目。東海岸からニューヨーク、アムステルダム、西ドイツを巡る作家と少女の旅が16ミリにより撮影されている。関西では来春公開予定。

ンへと走るその列車をカメラはとらえながらぐんぐん遠く高く離れてゆく。あたかも天使が空からこの列車のハッピー・エンディング(終着駅)を約束するかのよう。このラストが美しく、列車内でフィリップが一九七三年八月三十一日の新聞を見つめそこにジョン・フォード死すの大きなニュースの載っているのを見つめるところも何となく記録映画風で、しかもこの監督のフォード・ファンのこともチラと知らされる。

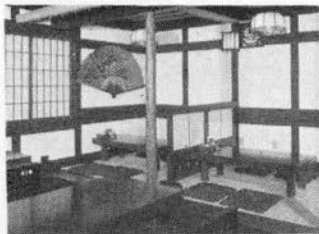


びっと・いん



★ステーキの泊瀬川に

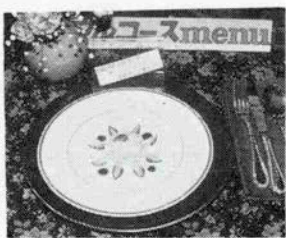
懐石メニューが登場
本特派ステーキがお馴染みの泊瀬川が、今年8月から懐石料理を始めた。ステーキに季節の味を加えたおまかせ料理が、華・7000円、雅・50000円。お手軽な所では、泊瀬川弁当3000円、造り定食2000円、天麩羅定食2000円がある。「ステーキと共に、旬の味を存分に味わっていたくのが長年の夢でしたから」と話すマスターの言葉通り、単品メニューにも季節感あふれる逸品が多い。中でも海老フライは絶品。お土産も色々、2000円から。



2Fのお座敷で懐石料理を

■中央区三宮町2-19-13 電話3321-6516 月曜休11:30AM-1:30PM 5/9PM

★I LOVE デザート
オーパB3Fに誕生したWAGRAMに女の子の視線が集中。フルコースメニ



これがウワサのケーキのフルコース

ュー、といつてもお菓子のコースなんです。甘いだけがお菓子ではない、というわけでコースは旬の野菜をデザート風にアレンジしたオードブルに始まりクリームチーズとマスカットワインのメインは例えばフルーツのグラタン風、そしてクッキー、最後は脂肪分をとるブラジルのマテ茶で締めくり。1カ月単位で変わるメニューは常時3種類(各1500円)。6種類から3種類のデザートを選ぶアラカルトもありませう。

■中央区北野町1-3 新神戸オリエンタルパークアベニューB3F 11AM-10PM 年中無休 電話2621-2210

★お嬢さんと過ごす
ランチタイムはいかが？
学生の町岡本で、本格的フランス料理が気軽に楽しめるという評判のボニータは、実は甲南女子大学の学生食堂。去年4月にオープンした頃は学生客が多かったが、今では一般の固定客も多いという。それもそのはず、老舗神戸精養軒の味だから。繊細な味わいが定評の洋風懐石は、和食器でいただくフランス料理(2500円と5000円。要予約)。他に日替りデナーや5000円前後でコースも楽しめる。お嬢さん方にも人気なのはケーキタイム。お友達とのお喋りもはずみませう。



お洒落な雰囲気 気軽に仏料理をどうぞ

■東灘区岡本1-15-5 (JR本山駅北) 電話413-0116 10AM-9PM 月曜休

★酒と手料理が
静かに楽しめる

★NEWS
嵐で素敵に
トワイライト

■お酒を愉しみたい方に、4月に

オープンしたバー・嵐。先月は姉妹店の萩原珈琲店・珈琲倶楽部と共にジャズ&クラシックコンサートを開き、ユニークな動きを見せている。

まだ嵐に馴染みのない方にお勧めしたいのが、日曜の夜のセットメニュー。2ドリンク+1ディッシュで、お一人様20000円。午後4時から10時までのお得なセットだ。平日は午後5時から8時



まで、トワイライト・アワーのセットがある。珈琲倶楽部でコーヒータイムの後は、嵐で大人の時間をどうぞ。

■中央区北長狭通2-1-11 玉広第2ビル7F 電話333-9306 無休5PM-12AM 日曜のみ4-10PM

キッチンバー・ガリバーは11月7日にオープンしたばかり。料理が好きで、好きでというオーナーの松井さんが、一人で切り盛りしている。



オーナーの松井さん

キッチンバーという名の通り、お酒だけでなく、松井さんの手料理が自慢。メ

ニューも大根と厚揚げの煮もの、えのきとしめじの酒蒸など家庭料理が一品5、600円と手ごろ。一人2000円もあれば十分。8席のカウンターだけの小さな店だが、静かに流れるジャズを聞きながら、充実した時間が過ごせる。

■中央区加納町4-16-4 ビクトリービルB1 電話223372
6PM/12AM 日祝休

★隠れ家的スペースのトワイライト・バー

パブリック・バーではわざわざわめていてなかなか落ち着かない、かと言ってスナックには足が向かないって時が飲みに行く結構多いですよ。そんな時にぜひお勧めなのが東門街の中間



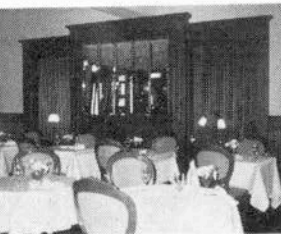
ウッディ調の雰囲気

もオープン。ここも見逃せなそう。

■中央区下山手通1-3-5 康新ビル2F 電話3318428 6PM/12AM ビール ¥600/15名/25名のパーティ可

★ブロック30に

レットロがオープン
ブラッセリー・レットロがカフェ・レットロとして11月1日、ブロック30にオープンした。営業時間を、ブレ



雰囲気は以前のままに

にある上海。名前から受けるイメージとは裏腹に、内装はシックな木造のカフェ・バー感覚。そして料理の方は絶品の中華と、雰囲気、味の両方に満足できる。またもつと嬉しい事に、10月末から裏手に同名の隠れ家的トワイライト・バー

●サツポロビール(俄からポレール・セミスウイトワイン新発売!!)

おいしさは品質。クリンなワインづくりを信条に選りすぐられた原料と独自のクールドワイナリで丹念に創りあげられるサツポロワイン

ポレール。やや辛口の大人のワイン、「ドライセレクトジョン・シリエーション」に加えて、さわやかな味わいとほのかな甘さが優しい「セミスウ



真帆しぶきさんの歌とお話に囲まれて

イトセレクトジョン」が新登場。白はニュージラランド産、西独産のミューラートルゴー種のワインが主体の柔らかい酸味とライラックの香りがソフトにマッチ。聞き始めのバラの香り



花やかなワインを香りとともに召しあがられ

は西独産とユーゴスラビア産のトラミナー種が主体のまろやかな口当り。

さる10月18日にはポーターピアホテルで元宝塚スター真帆しぶきさんを迎えてのワインセミナーも開催され、約280人の女性

が華やかなワインの香りとステージに酔いしれた「ポレール・セミスウイト」の白を40名様にプレゼント。今後は編集部まで取りに来られる方に限ります。希望者は

ハガキに住所・氏名・年齢・費を記入して〒550神戸市中央区東町113ビル9F神戸っ子「ポレールワイン」係へ

をえてとりのぞき、レストランのイメージを一新。シンプルでリーズナブルな食事が楽しめる雰囲気は以前のレットロそのままに、トータルな楽しみができるニュー・レットロは、もつと長い時間、もつとくつろいだ時間を届けてくれる。

■中央区明石町30 電話3910601
平日/9AM/1AM 休日/10:30AM/6AM 水曜休

「現実の街・理想の都市」を追及し、「街づくり」に対して市民として積極的に発言していく。

当日は(一)設立式典(二)都市探検大演説会(弁士・重村力氏：神戸大学工学部講師建築家)(三)幻灯上映会(IV)パーティーが行われる。参加費は一般1500円、学生1200円。晩餐会は一律3500円。尚、当日の服装はセミフォーマル
 ■予約・問合わせは、〒650西宮郵便局私書箱70号足立直哉さん 電話079817316208まで
 ★家族そろって聖夜の音楽会
 12月11日(日)2:00より、葦合文化センターあい



聖夜と音楽と

あいホールにおいて、マリンバと歌によるクリスマスファミリーコンサートが開催される。演奏は神戸マリ

★NEC神戸セントピア デザイン画大募集!

「あなたの神戸のイメージは?」——NEC神戸支社では神戸の街を自由に表現したデザイン画を募集、優秀作品をもとにカッティングシートを用いてサントピアショールームのウインドウガラス面にデザインする。

応募期間 12月1日～1月31日まで
 ・応募方法 A4サイズ用の紙(横に使用)に描かれたデザイン画と住所・氏名・年齢・職業・電話番号・作品・作品タイトルを別紙に記入のうえ、〒650中央区東町16番地日本電気株式会社神戸支社デザイン画募集係まで

●KOBÉ POST

★環境造形Qの山口牧生、増田正和、小林陸一郎の作家たちは、二十年を迎えたこの秋、数々の作品を神戸に、また日本各地に創ってこのほどグループを解散されました。本誌も、昨年春、メリケンパークに誕生した、映画記念碑々の建造物にお世になり、この愛すべき記念碑が最後の大作となりました。

★脚本家の香村菊雄さんが、伊丹第一ホテルのご近所で転居されました。新住所〒651伊丹市中央区5丁目3-12 電話0727(77)1180

★国際ジャパネスク歌謡伎を主宰する海野光子先生が、兵庫県教職員組合より、社会文化賞を受賞されました。

★本誌「動物園飼育日記」の執筆者亀井一成さん(王子動物園飼育係)に、11月4日初孫の文典くんが誕生。いよいよおじいちゃん

★詩人の西本昭太郎さんが転居。〒651兵庫区荒田町3-14-17アルカイデア大石町

★能楽師(鶴世流)の藤谷政和さんが十月十五日に肺梗塞で急せいされ、十月十八日に上田能楽堂でご葬儀が取り行われました。ご冥福をお祈りいたします。

★12月10日(土)19:00～21:00に、北野町の「コートダジュール」(高嶋ゆきさん)(ヒルサイドテラス4F) 電話078(27)2222で、明日の関西を担う若い人々、

関西在住のカタカナ職業人達の為の交流会を企画。第1回コートダジュール・ワークショップを開催する。今回のゲストは、井筒和幸監督(「ガキ帝国」二代目はクリスチャン)等を発表した異才。

募集人員30名(定員になり次第締切)第1回のテーマは「カメラを通して見た時代風俗」参加費1万円(料飲み含む)

計時花



“海側から港や街を見る”

比較的穏やかな秋の海。港では鴨がゆつくり舞い飛ぶ、お馴染の港ならではの光景である。

それにしても、最近神戸の港には船が少ないなあと、従来の突堤を見な

ンパンサンブル、曲目はG線上のアリア、ラプソディ・イン・ブルーなど、誰もが楽しめるものばかり。入場料は一般1000円(当日1200円)、ファミリー券4人まで3000円(前売のみ)

■問い合わせ：葦合文化センター
 電話0411まで

がらそう思っていたものである。しかし、港を東から順番に西まで見てみると港の機能が今までの港とはまるで変わって

いて、結構、船は六甲アイランドなどにちらばって停泊しているのになぶかったのである。

見た眼には港に船が少ないと思う。ところが貨物の取扱量の数字は減っていない。素直に、不思議だと思っていたが、港を二巡して見るとコンテナや貨物の取扱量は増加していることを理解

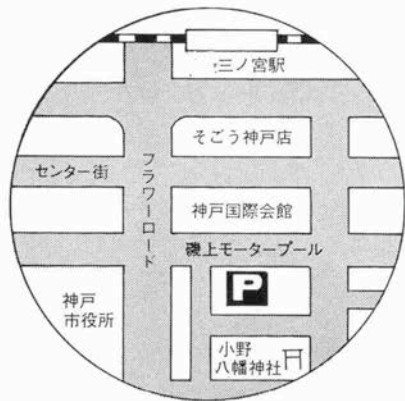
した。それにしても、海側から港や街を見る”機会は少ない。

これが神戸港なのかと驚ろいた。部分的だが情けないほど汚ない。思わず目をそむける所もある神戸港は日本一の港ではないか、とその水際を

もつと綺麗に出来ないのか勿論、全部が全部ではないが、港を綺麗にする月間など設けて市民有志で港の水際のデザインをし、汚れた所を綺麗にする運動を提唱したい。

(Y)

ビジネスに!
ショッピングに!
ご利用ください



磯上モータープール

(神戸国際会館前) TEL (078) 251-2662 (8:00A.M.~11:00P.M.)

- 収容台数 350台
- 月極駐車可
- 年中無休

美男インタビュー

新神戸オリエンタル劇場
「仮名手本忠臣蔵」主演の

近藤正臣さん

テレビで浅野内匠頭
舞台上で大星由良之介

十月五日から十二月二十八日までの三カ月間ロングラン興行の幕を切った新神戸オリエンタル劇場の「仮名手本忠臣蔵」。なか日を迎えて人気は一向に衰えを見せず、連日の大賑いを見せているが、その魅力を探るべく、主演として或いは座長として大活躍の近藤正臣さんを、本誌副編集長小泉美喜子がインタビュー。テンガロンハットを目深かにかぶり、藍染めの暖簾のかかった自らの楽屋で気さくに迎えて下さった近藤さん。はてさて、どんな話が聞けますことやら…

★非常に気持ちのいいやつだなあ！

——三カ月のロングラン興業も、ちょうど半ばを過ぎましたね。

近藤 ええ、やっと。でも、まだ半分あるんかいなと思ふと、うそみたいや。

——だいぶん神戸弁になってきたんどちらがいますか？
近藤 いや、神戸弁というかね、関西弁か神戸弁か大阪弁



か、わけがわかれへん。むちゃくちゃ、ほんまに。でもう疲れた”なんてほっとした言葉はまだ言えませんしね。”あと3日”となれば別やけど。

—— 三時間半と言ええねえ。

近藤 出てる時間、実質時間はそう長くはないんですけどねえ、やっぱり結構きついもんですねえ、これは。

—— 見る方もなかなかほっとする場がないくらいですものねえ。

近藤 幕間も短かいしねえ。

—— かなり緊張感があるでしょ、ずっと。

近藤 ふつう一カ月の芝居でも、よう「中だるみ」とか言いますよねえ。ところがこの三カ月の芝居が中だるみせんのは、やっぱりみんなががんばってるからでしょうねえ。すごいすねえ。

—— 座長としてはいかがですか？面倒見がいいと評判ですが。

近藤 いささか疲れて来て、だんだん面倒見が悪くなって来た(笑)。

—— 蛭川さんとの最初の出会いはいつですか？

近藤 いや、最初はテレビのドラマだったと思いますよ、彼が役者だった頃。でも、「出会った」とはつきり意識があるのは当然彼の演出の『にぎりえ』に出演した時かなあ。まあ、その辺で会ったりしたら、よく話したりしてましたけどねえ。

—— でも、やっぱり蛭川さんのお気に入りの役者というのには、何かあるような気がしますね。軽やかとか、しなやかとか？

近藤 でも、俺なんかはどうなんだろうねえ、別に蛭川さんのお気に入りという風には全然思っていないんだけどねえ。

—— 一力茶屋の場面がいいですねえ。

近藤 やあ、あれは難しいわ。いやですなえあその所は。気をつかいますねえ。たまたま、ようできてる日に見はったんとかやう？いろいろ変わりますねん、その日

その日(笑)。

—— 今度の演出はどうでしたか？

近藤 うーん、よく考えてみたら大星由良之助という人間には、さしたるドラマがないわけで、全部その場その場のドラマをしょった人間たちの間隙をぬって、それをうまく振り分けてゆくという役目だけですからねえ、個人のドラマとしては由良之介には別に何もありませんから、だから何を芯にしてやった方がいいのか、ちよっとわかりにくい所がありましたけど。いわゆる辛抱役というやつじゃないですかねえ。

—— 由良之介に対しての感想はいかがですか？

近藤 僕の実年齢より一つ下なんですなえ、それを思うとその年でもってあれだけの思慮分別を持っていた昔の人達、五十になったら死ぬんだったという覚悟ができてた人たちの大人ぶりと現代人のそれとはどえらい違いがあるっていう、今で言えは本当にやっとなんと七十、八十歳くらいで到達するであろう境地に、当時ではすでに四十五、六の男の中にあつたという、そしてそれは決して由良之介だけじゃなしに、その時代、ごろごろいたんじゃないかと：そう思うと、りっぱな男が多かつたんだろうねえ。

—— 一番気に入っている所はどういう所でしょう。

近藤 職業に対する責任感と美意識みたいなものじゃないですかねえ。あの時代の武士、武家というのは総べてが家につながる、禄を離れたら家がなくなるわけだからもう武士でなくなっちゃうわけだけれども、由良之介は精根は武士のまんまで何とかつぱり切っちゃつたという、そこいらあたりが自分のいた場所、依つて立つ仕事、職業みたいなものに対する責任と美意識みたいなものがくつきり貫通されてる、非常に気持ちがいいやつだなあと思えますねえ。

★とにかく、みんながんばってますよ！

—— 「おかる」をはじめ、様々な女がでて来ますが、どの女がお好きですか？



近藤 歌舞伎なんかを見ると感じないんだけど、この
蜷川さん演出の忠臣蔵を見て気づいたことは、女が出てきて幕切れになる時っていうのは必ず女が泣いているんですよ。男が最後にいて幕が切れる時っていうのは男は泣いてない。「女が本当にこんなに泣くものだろうか」という疑問が僕にはやたらあるんですね、「うそだろう！あんなに女は泣かないだろう！！」っていう気がするんだけどね(笑)。

そういう意味ではこのドラマに出てくる女の人っていうのは例えば「おかる」なんていうのは一人の間でありながら三つの役を演じてるって言われてる、ま、その通りですよ。しぶといし、情欲にもたけてるし、割とリアルな感じがする女だなんていう気がするけどあとはどうもピンとこないですよええ。

—— 確かに「おかる」は魅力ありますよねえ。

近藤 ええ、俺もそうですよ。あのスケベさがまたいいですよ(笑)。

—— もうご家族の方は見にいらしたんですか？

近藤 ええ、見えますよ。

—— お嬢さんなんかはどうおっしゃってますか？

近藤 でも、うちの子なんかの意見は参考にならないですよええ。稽古に入ってる段階に家の中で僕がポロポロ話す機会がありますし、その辺をすくいとって下売りが半分あったりしますからね。

—— 「神戸発」の蜷川忠臣蔵、この成功がとてもうれしいですね。

近藤 僕もううれしい。本当にうれしい。それはこの劇場を経営する人たちにも、もちろん関わってくる問題で、

出演者だけの熱意の問題じゃないんですね。この劇場をつくり、これから青ようとして今いるスタッフたちがとにかくがんばってますよ。

—— 中内会長ともお会いになりましたね。どうですか印象は？

近藤 ま、そんなに長くお話ししたわけじゃありませんし、むしろテレビなんかで：ほら、ちようど南海ホークスの問題とかいろいろありましたでしょう。それを拝見したりすることの方が多かったのですね…、でもやっぱりおもしろい方ですよええ、神戸の市長さんもおかしいしさあ：(笑)。だから神戸ってね、すごいしゃれたね、異国情緒のある、西洋との関わりも長崎みたいな形じゃなくて、もっと近代になってからの関わりが激しくて、何て言うか、日本人ばなれした大人たちがいる街だっていう気がイメージとしてあったわけだけど、いやあ、来てみるとやっぱりそうだったね。やっぱり、ちよっと他の街スジとは違うねえ。

—— 特にどんな所でそうお感じになりますか？

近藤 ま、これは誰だってみんな言うんだろうけど、やっぱりしゃれてるわ、おしゃれたわこは、本当に。で、おしゃれな割には人間がざっくばらんな所があるね、みんな。

—— 港町だし、気取ってもしようがないという気があるんですよ。

近藤 いやそれでいて結構気取ってるんだよ。一見ね。話してみるとそんなことはないんだけど、見かけは結構気取った街でさあ、俺は好きだなあ。でも、もっと好きになるためには、この公演の回数がもっと少なくてねえ、

もう少し神戸の街で僕が泳いでまわれるような時間があればいいんだけど。

僕ねえ、東京を出る時ねえ、「いやあ、神戸はねえ、いい女がたくさんいるからね、もうねえ、三カ月もその神戸にいるんだぜ。すごいよこれは。」なんて話をしてたの。「もう終る頃には何人の女が俺のまわりに群がって…」なんてね(笑)。でもウソばかりノなか日過ぎてまだ一人もいねえっていうさあ(笑)。「なんなんだ、こりや一体」っていうくらい。ま、結局、俺があんまり外へ出てないってことでしようねえ。

—— 出る時間もないでしょう、このスケジュールでは。新神戸オリエンタルホテルに泊ってらっしゃるんですよ、どちら側の部屋ですか？

近藤 海側ですね。須磨の方から淡路島の方まで見えて、夜なんかなかなか美しくて…。そんな所に一人でいる化しさって言うのがしみじみと身に染みるっていう仕掛けになってるね、こは(笑)。だから、舞台で耐え、現実で耐えてやってくるからさあ、なんかヘレンケラーのようなもんだねえ(笑)。

—— じゃあ、あんまり東京に居ると変わらないんじゃないですか？

近藤 いや、東京に居る方がまだうんと楽で、ラフでいられるよ、俺。

—— 飲みに行くっていう事もないんですか？

近藤 ないですね。明日のことを考えると恐くて。

★ぜひ、もう一度、神戸でやりたいね。

—— これが終ったら、どういいう仕事のご予定でいらっしゃるんですか？

近藤 いや、平行して京都のテレビで「大忠臣蔵」の浅野内匠頭をやってるんですよ(笑)。正月二日の12時間ドラマなんだけどね。だから、あっちで原因をやって、こっちで結果をやって…。という。何か冴えないねえ、原因も結果も一緒にやっ(笑)。

—— 来年なんかはどうなんでしょうか？

近藤 来年はねえ、七月に一カ月、大阪の中座で四谷怪談をやるんですよ。

—— 伊右衛門ですか？

近藤 そう。

—— 関西づいてますね。

近藤 だから、これもねえ、「大阪発」にしたいの。

—— お岩は誰ですか？

近藤 それがなかなか決められないんだ。いやだっていう人が多くてね。

—— 演出は？

近藤 青井洋治。売れっ子の演出家だねえ。「ラ・カージュ・オ・フオール」の時もそうだったんだけど、今度の中座も彼の演出で…

—— これはおもしろそうですねえ、「悪」が利いてて。近藤 そうですねえ。でも、またここでやりたいですよ。ここで「ラ・カージュ…」なんかどうかねえ、すごくいいと思うんだけど。

—— そうですね。エキゾチックというか、ハイカラなものも神戸でやって欲しいですね。

近藤 本当にもう一ぺん「ラ・カージュ・オ・フオール」をもってやって来たいと思ってますよ。

—— そうですか、楽しみですね…本日はお忙しい中、本当にありがとうございます。

(十一月十七日、新神戸オリエンタル劇場楽屋にて)



ライブ・ツアーに

♪ 夜は更けて…

小関三平

〈神戸女学院大学教授〉

ミナト・コーベは、ステキである。私なんか、東北ネクラの末裔であるだけに、海と陽光の魅惑から逃れがたい。故あって、「阪神間」の職場からはズラかることにしたが、住いを変えようとは思わない。

海の潮風は、あちこちの外国から、さまざまなメロディとリズムを、もたらしてくれた。「国際都市」のお陰である。楽しく飲むためには、歌がなければならぬ。というわけで、本誌編集部企画に便乗して、今回は外来音楽のライブ・ハウスのハシゴを試みることにした。

まずは、「スペイン料理とワインの店」と銘打つ「ブルー・リボン」である。それは、阪急・阪神JRの三宮駅から降りてすぐ、生田新道と北野坂が交わる東・北の角、「メインスター・ビル」の五階に在った。

実は、マスター・熱田守男氏は、神戸のフラメンコ・ギタリストの大先輩なのである。オリジナル曲も出版されているし、「熱田ギター・アカデミー」の主宰者でもある。活躍中のお弟子さんも多い。

このお店は、もともと、加納町のあたりにあった。ただし昭和三十二年開店というから、オドロキである。私





■スペイン料理とワインの店
“ブルーリボン”

神戸市中央区北長狭通1丁目20-1
メインスタービル5F
☎392-5213

はその頃のコーベのことは知らないが、フラメンコ・ギターの生演奏が聴ける店なんて、なかったはずである。なんだかアメリカ風の店名は、おそらく、心ならずも苦肉の策だったのだろう。スペイン語なんかにしてもウケなかったにちがいない。なにしろ三十一年も前のことである。

そのあとしばらくして、マスターは、本場のエスパーニャへと、武者修業に旅立った。もともと、すでに大師匠の三好保彦さんにシゴカレていたから、道場破りみたいな気配もあったのかもしれない。

今でも、ときどき、スペインに遊びに行くらしい。但し、ギターは携えない。逆に頼まれて、ギターを買って帰ったりするのだとか…。

私も南欧ファンなので、懐しい芸通の話題を楽しめて嬉しかった。インテリアは、もちろん、白い壁のエスパーニャ風である。が、玄関を入ったすぐ右側の壁には、南米はベルカボリヴィアのおぼしき芦笛が、飾られていたりする。これまた、私には、二十年前の中南米放浪を想い起させてくれた。

残念ながら、フォークやロックしか知らない若いお客さんの手前、熱田さんもフラメンコ演奏を遠慮してられるらしいが、それは彼の内気ゆえで、もっとヤングを啓蒙してもらわないとコまる。

「クラい曲が好き」と言う熱田さんの『ソレアレス(孤独)』を聴きながら味わうスペイン・ワインは、また格別なのである。

さて、お次は、シャンソニエ「エ・トワ」である。トア・ロードを南に下って、三宮センター街西入口、「スカイトピア・ビル」の三階にある。「プチ・シャンソン音楽の家」というのが、キャッチ・フレーズである。もともと、シャンソンは女性名詞だから、「プチイトウ」でなければならぬが、それでは舌を噛んでしまう。もちろん、「エ・トワ」とは、「そして、あんた」であ

る。あなたは、おおらかなネアカ女史・堀郁子さんの微笑みに迎えられる。堀さんは、パリのオランピア劇場でのジルベール・ベコー・シヨールを楽しんで帰られたばかりで、興奮冷めやらぬ態であった。

やがて、彼女は、ページュのピアノに坐って、弾き語りを始め。なにしろ、もと、メッツォ・ソプラノのクラシック歌手だから、声量は（体格と同じく）堂々たるものである。鍵盤の叩き方も、かなり勇壮（？）と感じられた。

が、そこはさすが、曲が変わると、繊細なピアノシモに変わり、余韻を残して弾き終える。なかなかニクイ。

人柄がまた、ステキである。今日の自分があるのは、ひとえに、恩師や、亡くなった親友・マネージャーの戸田朝恵さんのお陰：と、しみじみ話される。明朗かつ謙



■プチシャンソン・音楽の家
“ET TOI (エ・トワ)”
神戸市中央区三宮町3-8-12
スカイトワビル3F
☎332-1755



虚なのである。キング・レコードから、「君を愛す」と題したLPも出し、関西の歌手三〇余名と万余のファンをつなぐべき「シャンソン協会」（会費二千元）のボス（？）なのにもかかわらず、である。

酔いがまわると、ついアツカマシくなって、ママの伴奏で歌わせて、などと口走りかねないので、オジさん客四人がドヤドヤと入ってきたのを機に、「じゃ、また」となった。

加納町へと向かう。不動坂を上ってすぐ右に、お目あての店がある。「ブルー・グラスとカントリイ」のメッサー「ミュージック・イン・ホンキイ・トニック」である。



■BLUEGRASS & COUNTRY
"HONKY TONK"

神戸市中央区加納町2丁目2-2
☎241-2161



ここには、宇崎竜童や大和田漢なんぞがフラリと現われて、興に乗ればジャム・セッションを楽しんだりもするらしい。若ものが聞いたら、エエーッ?と、声を上げるだろう。

もちろん、ここでもまた、マスター・野沢隆一郎氏

が、練達のギタリストである。「六〇年代」世代のOBだから、キャリアは二〇年を越えるが、柔和な童顔の人である。

ところが、なぜか当夜は、お客さんは一人の常連だけであった。カントリイは神戸の目玉のハズなのに…と、いささか残念な思いがした。

いったい、神戸っ子はナニしとんじやノと、内心ギフン(?)に駆られたのだが、禍福ハ糾ヘル縄ノ如シ、お客が少ないお陰で、私は、神戸大学・リッチ・ランナー・カンパニーの諸君の、特別サーヴイスに接したのである。

クアルテットを成すのは、ギター&ヴォーカル||佐藤文芳クン(行政法)、フラット・マンドリン||岡本央クン(電気工学)、ベース||江島真クン(刑法)、パンジヨウ||国分二郎クン(行政法)の面々である。

「アトム・ゴイン・バック・トゥ・オールド・ケンタッキイ」、「ジャンバラヤ」ほか一〇曲近くも演奏してくれた。こういうのを聴いていると、もう私は、じっとしてられない。思わずコーフンのあまり、全身をゆすり、おもしろしをせんばかりであった。

わが甥も娘も神戸大学のお世話になってることもあるし、初々しいヤング諸君の達者な演奏に、大いなる声援を送りたい。

マスターによると、彼らはどこに出しても恥ずかしくないレベルだという。だが、それは、野沢氏が培った人脈あればこそで、関西大学その他の諸君も、入れ替り立ち替り、プレイしに来る。七〇年前後にくらべると、この種のジャンルは不当に忘れられがちだが、それでも、しなやかに・したたかに、水脈が流れ続けることを、祈っておこう。

わが学院の榎本美枝クンも、一月一七日に登場すると聞いたが、残念ながらその夜、私はこうやって原稿を書いているワケで、聴けなかった。美枝チャンよ、『ホンキイ・トック』の星となれエノ(も、えこひいき、ミエ



■COZY SPOT
"Charlie's"

神戸市中央区山本通2丁目2-1
北星ハイツ1F ☎222-6909

ミエ:)

さて、R&Bやソウルはどこで聴けるか？

「コージイ・スポット」―「チャーリーズ」である。中山手カトリック教会の北向いだから、わかりやすい。チャーリーこと徐光星氏は、脂のノッた三八歳、堂々たる押し出しの大人で、パパはU・S・A、ママは中国のハーフとか。カトリック校・マリスト学園の出身である。

ジミイ・ヘンドリクスやクリムを愛し憧れてこの道に入ったと言うが、レパートリーはきわめて広い。八六キロの貫禄は充分、実にいい顔をしている。サビのある低音、高音の張り、いずれもセクシイである。ギターの腕前は、野沢氏が絶讃してやまぬほどのなだ。赤いチエックのシャツの上に黒いセーター、そして紺のジーンズと、当夜のさりげないファッションも、キマッていた。

ベース・ギターを弾くは、通称カツチャン、ボサボサ髪にヒゲの、シブいミドルである。カウンターのの中には、もう少し若い、通称ピンクくんが入ってた。いずれも「チャーリーズ・エンジェル」ならぬ、徐監督率いる草野球チーム「ウッドハウス」のメンバーなのだ。

だが、この店の売り物は、ブルースでありソウルなのだから、「コージイな」(ゆったりと、くつろいだ)オトナの雰囲気である。

ところで、テープ・ボックスを眺め渡していたら、「エル・パレード」、つまり、スペイン語で「父」と題したのがあった。ワケを聞くと、令息(一八歳)がチャーリー氏のために録音してくれたのだとか。彼の名前は、「アルドリック」という。いささか変っている。由来をたずねると、パパが、尊敬するミュージシャンのイニシャルをつないだのだという。パパはエライ!

外に出ると、もう十二時を過ぎている。酔眼モローとして、ジャズとラテンは断念することにした。

寒風吹きすさぶなか、三宮、トアロード、北野町：
小関先生、大変お疲れさまでした。